



旧片浜小学校の運営事業者が決定

「新たな教育・人づくりの拠点」がスタートします

平成30年4月から旧片浜小学校において、「新たな教育・人づくり」の拠点の運営事業者となった株式会社マキノハラボ。今回はその業者と実施する事業内容について紹介します。

問い合わせ 企画政策課 松浦 ☎0041



決定までの経過

市は平成28年11月に「公共施設マネジメント基本計画」を策定し、市が所有する公共施設の効果的活用や効率的な維持管理を進め、魅力的かつ持続性の高い健全な自治体経営の実現を目指しています。

その中の重点施策である旧片浜小学校の取り組みは、公民連携（PPP）は

ブリック・プライベート・パートナーシップ）の手法で実施しました。

公民連携は、公共と民間が協力・連携して、公共サービスの在り方をより良くする新たな仕組みです。

旧片浜小学校での管理運営や事業実施について、民間の経営ノウハウやネットワーク、創意工夫を最大限に生かせるよう、事業者の公募・選定の段階から取り入れられました。

経過とスケジュール（抜粋）

- 平成28年10月 片浜地区まちづくり計画策定委員会（全6回）〔～平成29年3月〕
片浜小利活用100人ワークショップ
- 平成29年6月 募集要項案作成
- 7月 選定基準検討会の開催
- 8月 公募開始、現地説明会の開催（5者参加）
- 9月 募集締切り（4者応募）
- 10月 一次選定審査会（書類）、二次選定審査会（プレゼン）
- 11月 交渉事業者の決定、運営事業者の試験利用開始
- 12月 片浜区民への説明会
- 平成30年2月 株式会社マキノハラボとの協定書締結
- 4月 運営事業者による管理運営開始



片浜地区で行われた説明会



株式会社マキノハラボ 代表 福代孝良 さん

牧之原市出身。東京大学大学院にてアマゾン研究活動を経た後、JICA専門家としてブラジル環境天然資源院にて活動。2009年より外務省にて在リオデジャネイロ総領事館、在ブラジル日本国大使館に勤務。2013年から内閣府宇宙戦略室、宇宙開発戦略推進事務局にて主査を務める。2017年から東京大学特任准教授として、民間企業や政府と連携し、新産業創出、科学技術イノベーションを推進している。

はじめまして マキノハラボです

代表あいさつ

この度、旧片浜小学校を活用し、まちづくりや教育の拠点づくりに取り組むため、株式会社マキノハラボを設立しました。

これまで政府、大学、民間企業と連携して、科学技術の普及や国際協力に取り組んできた私と、地元でまちづくりや教育、ビジネスに取り組む牧之原市出身の仲間5人で活動を始めます。

現在、世界的にインターネットと現実のモノづくりが一体となり、社会全体の革新が急速に進んでいます。

学校で覚える理論や技術だけでなく、自ら学び、活動し

ていくことが必要になっていきます。特に、人生100年時代と呼ばれる中、何歳になっても、さまざまな分野、技術と連携し、柔軟に学び、働く場を作ることが重要です。

また、一方でインターネットで情報やモノが繋がっていることで、大都会や大企業でなくても、最新の技術や情報の共有が可能となり、むしろ地方の小規模な拠点の方が、現場で新たな取り組みを実践できるようになってきました。

そこで、私たちは牧之原台地と海に囲まれた豊かな自然、さまざまな産業によって培われたモノづくりの基盤を生かし、首都圏や世界の人々

を呼び込みます。また、地域の皆さんと一緒に活動できる拠点をつくり、新しい働き方や学び方を提案しながら、文化や情報の発信を進めます。みんなで参加しながら、モノや技術、そして体験を分かち合い、施設を賢く使うことで、若者から子育て世代、高齢者、また外国人、障がい者まで、あらゆる人々が、学び、遊び、新事業を生み出し、地域課題の解決に取り組む場所を目指します。

旧片浜小学校で市民みんなが主役となって「共感」し、「みんな」で、「未来志向」で、「賢く使い」、「まちづくり」を進めていけるように、私たちは新たな仕組みづくり、教育活動、関係事業を進めていきますので、よろしくお願ひいたします。



マキノハラボのメンバー（左から鈴木、今野、福代、増田、大石）

マキノハラボ

福代孝良 さん

1975年生まれ / 坂部区

趣味は音楽鑑賞などで、ギターをはじめ何でもやります。牧之原、日本、世界のいろいろな人が対話し、遊んで、学んで仕事ができる場所を作りたいです。

大石晃広 さん

1975年生まれ / 静波区

まきのはらビタミンウォークが大好き！です。牧之原市の「未来のカタチ」を片浜から日本、世界に発信できるよう、真剣に楽しんで、このプロジェクトに取り組んでいきます。

今野剛也 さん

1976年生まれ / 相良区

何事も真剣に楽しく活動をしています。遊び、学び、働ける場所として、市内外から人が集まり、新たなつながりが広がっていく、そんな魅力あふれる拠点にしていきたいです。

鈴木克哉 さん

1984年生まれ / 豊岡区

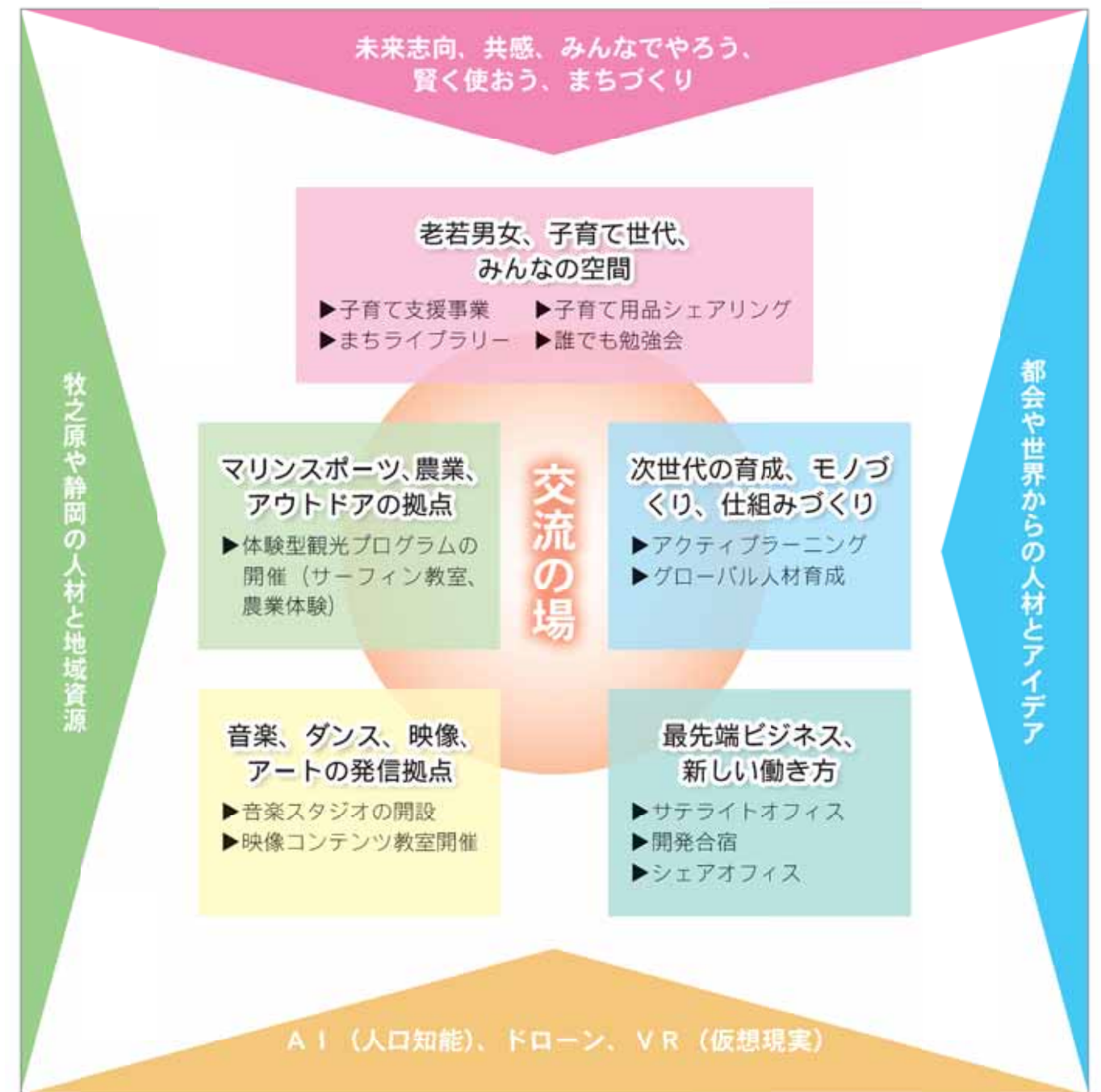
世界初となる「祭囃子全国大会」を、牧之原市開催に向けて奮闘中です。地元・歴史に密着しながら、全国に誇れるような地域を目指して取り組みたいと思います。

増田多朗 さん

1980年生まれ / 静波区

「ありがとう」の言葉を大切にしています。マキノハラボで主に子育て支援を担当します。子育て世代の不安を解消し、保育・教育環境の充実した牧之原市を目指します。

マキノハラボの事業計画イメージ



*具体的な事業内容は、試行事業を踏まえて改めてご案内します。

ボランティア・プロボノ

募 集

このような拠点づくりを市民の皆様と共に進めるため、一緒に考えてくださる地域のボランティアを募集します。また、さまざまな技術や経験を持っている方々にも、ぜひプロボノ（専門的な知識や経験、技能を提供するボランティア）としてお手伝いいただければと考えています。

今後、定期的にボランティア・プロボノ会議を開き、皆様と共にこの新しい拠点づくりを進めていきたいと思っておりますので、ぜひご参加ください。

問い合わせ マキノハラボ
☎080(7890)0388
✉makinofalab@gmail.com

マキノハラボは 地域と共に

私たちが目指す拠点は、教育活動やモノづくりを、それぞれ単独で行うだけでは実現できないと考えています。子育て世代の方々が勉強やモノづくりを行うためには、子育て支援の充実が必要です。

また、大人も子供も同時に学び遊べるような教育サービ

ス、マリンスポーツやアウトドア、農業体験などの活動および、民泊や農泊など地域の体験活動、マルシェ、文化事業など、それらが一体となって実現できることで、魅力づくりにつながり、大都市圏や世界からも人が集まりやすくなると思っています。

さらに、そのためのサービ

若者の挑戦と 斬新なアイデアに期待



片浜地区まちづくり実行委員会副委員長 徳原佳奈子 さん

片浜小学校の閉校から間もなく1年を迎えます。その思い出がたくさん詰まった学校が、どのように利活用されるのか、これまで関心を持って見てきました。マキノハラボを構成する5人全員が牧之原市出身で、それぞれが各界で活躍されていると聞いています。その彼らの挑戦と斬新なアイデアにワクワクしています。年末年始に行われた「マキラボシェアキャンプ」では、新たなにぎわいを感じることができました。私自身も、区民として、まちづくり実行委員会として、協力していきますので、地域の事業にも積極的に関わっていただけたらと思います。

市民の歩みが自然と向く 場所であってほしい



片浜区長 森下吉治 さん

旧片浜小学校の利活用は、区民にとっても大変大きな関心事でした。この度、マキノハラボという若者中心の新会社が名乗りをあげてくれました。市民の歩みが自然と向く場所であってほしいと思います。お茶カフェがあったり、雑談ができたり、モノづくりをしたりと思いは広がります。「片浜に行けば楽しい、勉強になる、ドローンなど最先端の技術に触れられる」など、大いに期待しています。



地区納涼祭をドローンで空撮



屋上からの初日の出



廊下が子どもたちの遊び場に



廊下のカフェで一休み



学校全体が憩いの場に変身

試行事業を 行いました

マキノハラボでは、年末年始に「マキラボシェアキャンプ」を行いました。シェアするものだけで会場をつくる新たな試みで、次への一歩となりました。